

megmeg—Spirit V—

藺草影志(OVERBLOOD)

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

シリーズ第5弾、主にココチノがメイン。たまに別物

更新は火・木・日曜となります

目次

T w o	s e c r e t s	I I I	47
l o g	V I. c o c o x c h i n o		
I I			37
l o g	V. T w o	s e c r e t s	
l o g	I V. T w o	s e c r e t s	25
m e r	v a c a t i o n		
l o g	I I I. S e c r e t	s u m	15
s r o o m			
l o g	I I. S e c r e t	c l a s	1
t			
l o g	I. S e c r e t	t o i l e	

i o n	!!	I I			127
l o g	X. S t e a l t h	m i s s			
s i o n	!!	I			116
l o g	I X. S t e a l t h	m i s			
V					106
o	I I	T w o	s e c r e t s	I	
l o g	V I I. c o c o x c h i n				69
(c o c o x r i z e)			
l o g	V I I. D e s o l a t i o n				

log I. Secret toilet

「…チノちゃん」

「チノちゃん」

——ココアさん…？

ココアさんが居たような気がしたんですが…

「……」

夢…だったのですか

——

「チノちゃん〜〜!!」

「!」

「(ココアさん)」

「も〜つ、先に出ちやうんだもん」

「途中まで一緒にいこうよ!」

「もうすぐ分かれ道ですが…」

「えっ!？」

「今日は迷わないでくださいね」

「もう大丈夫だよ!!じゃあまた放課後ね!」

「はい」

—————

—————

—————

—————
ココアさんと次会えるのは放課後…

なんだか今日はずっとココアさんの事を

考えているような気がしています…

今日はいったいどうしちゃったのか

今日はなんだか色んなことがフワフワしているような

しっかりしないと…

ガチャ

「こんにちはー、掃除が長引いて遅くなっちゃった！」

「ドキッ

」(ココアさん)「

「すぐ着替えてくるね」

」(ココアさん _____)「

「あれっ?」

「チノちゃんどうしたの? 具合悪い?」

「顔真っ赤だよ?」

「そんなことないです、気のせいですよ。ココアさん早く着替えてきて下さい、わたしお手洗い行きたいので」

「えーっ、本当に？」

「本当ですよ、早く着替えて下さい」

バタン

_____ 顔が真っ赤じゃないですか…

今日はずっとココアさんの事ばかり考えてしまつて

それだけでも変なのにココアさんの顔を見たら

ドク ドク

ここが あつい

ドク ドク

グッ

ザバツ

「は……はッ」

———
からだの真ん中がすごくジンジンする感じ

ぐちゃぐちゃで肌のぱんつが張り付いて

あつくて さわりたい
———

「は…はっ…」 スルルツ

「は…あ…」

ソツ

「ツゝあ…あは…」 ピチピチ ビクンツ

——この

ぷっくりしてるところが気持ちイイです

こすつたらすごく気持ち…

ニツ ニチュツ ニチュ

ニチュ ニチ プチュ

きもちい…

コンコン

ド ドツドツ

「チノちゃん大丈夫!?!着替え終わったけど、まだトイレ入ってるの?」

ドツドツドツ

「ドキッ

「まだ入ってますよ…どうしたんですか?」

「あつ、チノちゃんまだ入ってた?」

びっくりして口から心臓が飛び出しそうでした

でもココアさんの声聞いたら

このヌルヌルがあとからあとからしみだして

「きつと顔が赤かったからどうしても心配になっちゃって」

「大丈夫ですよ…っ」 ニユプ ニユ ニユ ニユプ

「ココアさんは心配しすぎですよ」 ニユ ニユプ ニユプ ニユ

プシッ

プピュ

外のドアは鍵もなくて

いまあけたら全部見えてしまうのに

「本当に大丈夫？」

「大丈夫です…っ」

「まったく、そこ居られたら」

「し…しづらいじゃないですか…っ」

「あつ確かに!!!」

「そうですよ…」

ココアさんと話しながら

「こんなところ触ってきもちよくなっているなんて

「本当にただのトイレなので、心配しないで下さい…」

「うーん…」

カランコロン

「いらっしやいませっ」

「は……はあ……は……はっ……はあ……はあ……」

これはきつとイケない事なのに

とつても とつても

きもちいいです…

プシヤアア…

キィ…

「あつ、チノちや〜〜ん」

「本当にココアさんは心配性ですね」ニコツ

「わたしだけの”ひみつのトイレ”

「これは癖になってしまいます…」

n
e
x
t.

l o g I I . S e c r e t c l a s s r o o m

—————
ずっと…あれからずっと

からだのおくがドキドキしている気がするんです
—————

—————
「いつてきまーす！」

—————
今日もココアさん、早いですね…

最近やたら朝早いのは

確か体育祭の早朝のクラスの練習でしたね

そう、体育祭の――

「忘れてるツ?! (うそですよね?!)」

これはさすがに届けないといけませんよね…

――

――

――

――廊下に誰もいない…

みんな外なんでしょうか

確かこのクラス

ガラッ

ココアさんの机は…

ここですね

「……………」

スト

…
ココアさんがいつもココに座ってると思うと、体が勝手に動いて座ってしまいました

ドクン　ドクン　ドクン

あれ？

えっ、まさかそんな

二チ 二チツ

ココアさんの席に座っただけで

濡れ…

「は……はっ……あはっ……」

まさか

そんなまさか

ヌルヌルツ ヌルルルツ
ビク ビクツ

「~~~~~♥」

わたしのからだいたいどうして

こんなにいやらしくなってしまうたんでしょう

ヌチャア……

あのトイレの日からココアさんを見るたびドキドキして

声を聞くとびびジンジンして

でもきつとこれはいけないことなんだと我慢していたけれど
もう無理そうです

ヌチ ヌチユ ヌチユイ

「ツ♥あ♥………／／／」

ゾク　ゾク　ゾク　ゾクツ…

——もうやっぱり

止まらなくなるのは知っていたんです

「ウツ~~~~ツ♥」

ヌポ　ヌポ　ヌルルツ

「ふああ♥………あっ♥」

「!?」ビクッ

今日はホント体育着忘れるなんて!

アハハハ

あんなに忘れないように言っていたのに!

ココアさん!?

ホント他は忘れてないといいなー

机の角がこんなに気持ち良いなんて

わたし今 ココアさんの机に擦り付けてる

ココアさんが今にも来ちゃうかもしれないのに

来ちゃ…

グチツ グチャグチャ グチユ グチユ

「は……あゝ♥はっあ……♥」

ガグガク カクカク

フシヤアア……



ガラッ

「あれっ？」

「窓閉め忘れてたみたい、開いてるー」

「はっ……」 ガクガク

トロオ……

「はっ……はっ……はっ……はー……はっあ……」

わたし本当に

どうなるんでしょう……

「は……っ」

next.

l o g I I I . S e c r e t s u m m e r v a c
a t i o n

A M 7 : 0 0

| チノの部屋

| 今日も淫らな音と嬌声が部屋の中で響く |

ニユ ニユチ ニユツ

| 今は朝の七時

まだ

まだイッてはダメ

まだ…

ニユプニユプツ

もうすぐココアさんが

コンコン

「!」 ビクツ

「おはよ〜っ!!チノちゃん起きてる?」

「(ココアさ…)」

「チノちゃん〜?」

「あ…っ、起きてます…っ」

「チノちゃん今日登校日だよね？遅れちゃうよ」 コンコン

「いま行きます!!」

「ギイ…」

—————
ココアさんの声でまたイってしまいました…

最近本当に癖になってしまって

いけないです…
—————

「チノちゃん!」

「ビク

「遅れちやうよ急いで〜」

「あつ、有り難う御座います」

「行つてきます」

——— この癖 何とかしないといけません…

「！」 ハッ

—————
—————
—————

ガチャ バン

「すみませんココアさん」

「肝心の荷物を忘れて行くななんて慌てすぎです…

「持っていないといけない荷物を忘れてしまって

「！」 ハッ

「何してるんですか!!」

「！」

「あ…えつと…」 オロオロ

「チノちゃんが学校行ってる間に、布団とか干しておこうと思って…」

「……」

「うわああああ……」

「あつ、えっ!?」

「オロオロ」

「………」 ヒク ヒクツ

「どうして見ちゃうんですか……ココアさんにだけは……知られたくなかったのに」 ポロ
ポロツ

「どうして」 ポロツ ポロ

「気持ち悪いですよね、引きましたよね。ココアさん見てももう止まらないんです。」

「すぐおながアツくなって、いじらないととめられなくて」

「チノちゃん」

「チノちゃん!! 落ち着いて」 ガッ

「う…」 ヒック ヒック ヒック

「 チュ

「!？」

「気持ち悪くなんかないよ!! 引いたりもしない！」

「むしろ嬉しいよ！チノちゃんが私のことそんなに想ってくれてるなんて」

スツ…

「こ…こ…こ…？ここがアツくなるの？」

「ココアさつ」 ドク ドク ドクツ ド

「！」 ビクツ

「チノちゃん凄く可愛い」

「本当にかわいい…いっぱいあふれてビクビクしてる」

————— ココアは少し笑みを浮かべ、チノの外陰部を舐める

部屋に響く嬌声がチノのドキドキを更に加速させていく

「や♥…ココアさ…ああ♥」

「このコリつとした所が気持ち良いのかな」

ジュル ジュッ

「ふあくっ……あ……あ♥……あく♥」

—— ココアはそう言いつつ、チノ陰核を吸う

チノの体はガクンガクンと震え、嬌声もさらに淫らになって行く

——

スル…

「あッ……ココアさっ……あ……」

—— 手つきが良いかのように、ココアはチノの制服を上にはずらし、ブラジャーの片方をずらしあげた

「チノちゃん胸可愛い…」 ズユウウウ…

「やツ♥…は…ココアさん…ダメツ…ココアさんダメですツ」

そして、外陰部と陰核を指で撫でていった

ブシユツ…

「撫でてるだけでイっちゃったね」

撫でた指には、チノの膣（なか）から垂れた愛液が糸を引いている

それも濃いものである、よほどココアが好きな証拠がでているかのようだ

「んふふ〜♥」

「チノちゃんだーいすき」 ニコニコ

「なんですか急に…」

「……………わ…私もです」 ボソツ

「!!」 クワツ

「チノちゃん今なんて!?! もう一回!!」

「いやです」

n
e
x
t.

l o g I V . T w o s e c r e t s

—————
気持ちがあつながつてしまったあの日から

もう全然 止まらなくなつてしまつた気がするんです

—————

ギイ…

ギシ ギシ

「……………」

「ふあ…ココアさん？」

「んふふーっ、きょうもしよ？」

「今日もですか…？」

「ジツ…」

「あつ、ココアさんダメですっ」

「えー？そなのー？」

「ちよっ」

「チノちゃんだって、待ってた癖に♥」

「えっ!？」

「今日もチノちゃんの可愛いところ、いっぱいみせてよ」

バツ

「ちよっ」

「はぁ…本当にチノちゃんかわいいよ」

「あ!?!え…えツ?」

「は…は…はッ」

チュウウウ…
♥

「あッ!?…あ…あ…」

「すぐびくびくしちゃうのキレイ、すぐかわいい声でちやのもキレイ」

「…はっ…ちよつと…コ…ココアさ…」

ズルッ

「あっココアさん!? 脱がしちゃだめです」

ジワアアア…

「チノちゃん、これなあに？」

「うう…」

プニプニ…

ジワアア…

「は……は……あ♥」

「ああ…チノちゃん本当にかわいすぎて止まらなくなっちゃう」

プチュ プチュ プチュ

「う…う…う…ツ♥あ♥っ…ツ」

「ココアさんにもさわりたいです」

ズルン!!

「あっ」ピクツ

ニユチ ニユチッ

「あ♥……あ……チノちゃん……あッ♥」

「ココアさんだつてこれなんですか？本当にかわいい人ですね……」

「いつしよにしましょう？私ココアさんと一緒にいいです」 ニユツ

|||

ヌチャ ヌチャツ ヌチャ

ギシ ギシ ギシッ

本来の自我を忘れ、お互いの外性器を擦り付け合うココアとチノ

ココアとチノはこの快楽に笑みを浮かべ、激しく擦り付け、嬌声もさらに
なまめかしくなっていく

「チノちゃん♥かわいいッ」

「ココアさんココアさんっ」

「ココアさんッ……ッあ♥……あッ♥……はッ」

「チノちゃんかわいいチノちゃんっ」

「うあ……ココアさッ……もっ……もうダメです♥」

又チユ 又チユッ 又チユ

ギユウウ

「あ♥あくツ…あ♥ココアさ…:…コ♥…ココアさんだいすき♥ココアさんだいすきツ
♥」 ビクツ ビク

プシュツ プシツ プシャアア…

—————
液が飛び散り始める
—————
チノの膾（なか）から愛液が飛び散り、同時にココアの膾（なか）から愛

—————
—————
—————
—————

「はー…はーッ♥」

「……………」

トロオ…

「んーっ、チノちゃん大好き♥」 チユツ

「はッ……は……」

—————

—————

—————

「ジーーーーーッ

「スヤア…

——
気持ちがつながって しあわせすぎて

こんなにしあわせでいいのかなって不安になるくらい…

next.

log V. Two secrets II

「わーっ!? チノちゃん! 見て見て」

「?」

「さっき届いた小包、夜のバー用の新衣装だったみたい! ほらっ、アリスの衣装だよお」

「アリス衣装ですか…?」

「チノちゃんが着たら絶対かわいいよ、チノちゃんのアリス姿見たいなあ。はやく着てほしいな〜♥」 ニッコツ

「いやです」

「ええっ!？」

「何をそんなに驚いてるんですか…着ないですよ」

「そんなーっ、絶対かわいいアリスチノちゃん絶対かわいいに決まってるアリスチノちゃんが見れないなんて、お姉ちゃんシヨックだよー!!」 ヴワアアアアアア

「しょうがないですね…少しだけですよ?」

「ホントに!?!はいこれ衣装ね」 シユタツ

—————
—————
—————
—————

「…
／
／
」

「わーっ、やっぱりチノちゃんすごくかわいいよーっ」

「むむーっ？これはスカートがかなり短めですな？」 ピラッ

「ひゃ!?ココアさん!？」

「すぐめくれてしまうではないですか」

「あとでチノちゃんのお父様にスカート短すぎましたって伝えないとね？」

「ふぁッ…ココアさん何してるんですか!？」

「スカートの短いチノちゃんを堪能してるんだよ？」

「あ…：…ココアさん駄目です人が来ちゃ…」

「んふふー♥クローズ表示にしてきちやった」 ニユプツ ニユチ

「なんてことしてるんですか」 プルプル…

「だって可愛いチノちゃん見たら、こうなっちゃうのわかってたし」 スル スルツ

「あツ…あ……は…／／」

ヌチユ ヌチヨ ヌチ

「あっ!？」

「はツ…は……あ……あツ……／／」

「ツ……ふあ…あ…／／」

「……／／」 トロオ…

「あ♥…………ツあ~~~~ツ♥…………は…／＼」 ビク ビクツ

「…………／＼」 ゾク ゾクツ

「…／＼」 ヒクツ ヒク

「チノちゃんどんどん敏感になっちゃうから、私の抑えがきかなくなっちゃうよ…」

—————
—————
—————
—————

「ごめんねチノちゃん、いつもすぐ襲っちゃって…」

「なんで謝るんですか？」

「……」

「謝る必要なんて……ないです」

「え？」

「だって私も…ココアさんと色々したいですから…恥ずかしいから、あまり言わないでください」

「チノちゃん…」 キュン♥…

「うわーんチノちゃん大好き!!また襲いたくなっちゃったよ!」 ガバツ

「もう言いませんからね」

「あと…」 グイツ

「わッ」

ドサッ

「次は私が襲います」 ニコッ

スル スル スル

「チノちゃん!?!」

「ココアさんこそ敏感になってるじゃないですか」 クス

「ほら」

ジトオ…

「ジュルズッ ジュルルル

「あッ♥チノちや……は……／＼

「あ♥だめッ……そこ……は……あ♥チノちや……はッ♥……うあ♥………
」 ビク ビク ビクッ

「はあッ……あ……／＼

「やっぱりココアさん敏感になってますね」

「はッ、やだーっ恥ずかしいよ！」

「……………」

—————

—————

「つて事が今あつたんだ!!千夜、ココアから何か聞いてないか？」

「えつと…ココアちゃんからは特になにも聞いてないわ、リゼちゃんの見間違いではないのかしら？…ちよつと信じられないのだけれど…」

「私だつてそう思いたいさ!!」 ガタツ

「まあまあ落ち着いて？」

「今度ココアちゃんに聞いてみておくわ、今日はとりあえず甘いものでも食べましょう」

ココアさんは本当可愛い人ですね…

これはリゼさんの…？

バダバタバタ

バン

「ココアさんっココアさん、大変です!!」

「どうしたの？もう寂しくなっちゃったの？」

「違います、そうじゃなくて、さつきりゼさんが見たかもしれないんです」

「リボンが落ちてただけだよ、チノちゃん気にしすぎだよ！」

「そっか…：そうですよね…：」

n e x t .

log VI. coco×chino—Two secrets III—

チツ チツ…

「……………」

——夏休みの宿題が終わらなくて

千夜ちゃんの家都合宿行ってくるよー

スツ…

「……………」

ムクツ

「……………」

「(眠れない…)。」

——チノちゃん

「……………」

コンコン

「チノちゃんっ、一緒に寝よーっ」 ガチャッ

「!!、ココアさん?!」 ガバッ

「な、夏休みの宿題のは…………?!」

「えへへ、頑張つて終わらせたよー、チノちゃんに早く会いたくて…」

「……………」

「わ、私もです。」 キュ

「も～～～～つチノちゃんっつ！、かわいすぎだよ～～」 ギユウウウウツ

「チノちゃん…良い香りがするー♥」 ギユツ

「コ、ココアさん？（ココアさん、何か変…）」

スルツ

「！」 ビクツ

スル スル

「えっ?! ココアさん?!」

「もーっ、お姉ちゃんって呼んでって言ったでしょー?」

「あ、あの…も、もしかして…酔ってますか…?」

「んー…? そんなことないよ、カルーアなんとかっていうジュースなら千夜ちゃん家で飲んだけど。」

「!?…そ、それは…(ジュース?!)」

「と、とにかくもう寝ますからっ! 離れてくださいっ」　グイ　グイツ

「ムー

ドンッ

「!!」

「~~~~つ」

「チノちゃんは私のこと嫌い…？私はこんなにチノちゃんの事が好きなのに…」

スルツ

「ひゃっ」 ビクンツ

ドキン ドキン…

「ココアさんダメですつ、待ってください…」

「チノちゃん…嫌なの？」 グスツ

「えっ」

「えっと、嫌というわけではなくて、そのっ…心の準備がまだ…あのっ」

「チノちゃん」

ドキ　ドキ

「んっ」

「んっ…」

クチュツ　チュ

「はっ」

チュツ　チュ

「んんっ……んっ……ん……ん／＼」

プハッ

「はっ……」 フニャ……

「チノちゃん……かわいい……」

スルッ

「んッ」 ビクンッ

「(ど、どうしよう……私、ココアさんと……)」

「……。」

シーン…

「……？」

「(あれ?)」

「zzz……」

「………(な、なんだ……寝てる……)」

「！」

「私、何がっかりして…」

「ココアさん起きてください、自分の部屋に戻ってください」

「……………」ムニユ〜…

———
次の日

———
「ふああ…おはよう」

———
「お、おはようございます…ドキッ」

「チノちゃん今日もかわいい♥♥」 ダキッ

「あ、あの…ココアさん…」

「んー？なあに？」

「き、昨日の…こと…覚えていますか？」

「？、昨日の事？」

「な、何にもないですつ、もう良いです！」 ガタッ

「チノちゃん」 カタン

チユッ

「……っ！」

「昨日のチノちゃんかわいかったよ♪」

「こ、ココアさん覚えて……っ」

「……………／／／」

「は、早く食べないと遅刻しますよっ！」

「青春だのう……」

n e x t .

log V.II. Desolation (cocoXr
ize)

— PM11:20 天々座家 —

リゼ「電気消すぞ」

ここあ「うん！」

リゼ「ふう……………」

ここあ「リゼちゃん、『うでまくら』して？」

リゼ「いいぞ、ほら」スツ

ここあ「んっ……／＼」ポスッ

リゼ「気に入ったのか？」

ここあ「りぜちゃんのでまくら、すき／＼」

リゼ「朝起きたらもう新しい年だ、良い夢見られるといいな」ナデナデ

ここあ「みんなともちつきするんだよ！あとおまいりも」

リゼ「ああ、だから早く寝よう」

ここあ「おやすみなさい、りぜちゃん」

リゼ「おやすみ、ここあ。今年もずっと側にいてくれてありがとう」ギユッ

リゼ（来年もずっと……ずっとお前と一緒にいられるといいな……）

リゼ（永遠に……ずっと……）

リゼ「……………」

ここあ「う……………」 Z Z Z

リゼ「……………」 ウツラウツラ

リゼ「……………」 すう Z Z Z

リゼ「……………」 Z Z Z

『りぜちゃんあさだよ、おきてー』

りぜ「んっ……っ？」

『ちこくしちやうよ？ねえ、りぜちゃん』

リゼ（ここあの声……おかしいな、昨日目覚ましセットしてたっけ……）

『むう……えいつ！』ポスツ

リゼ「！」

ここあ「リゼちゃん、おきてー！」

リゼ「ここあ……」

ここあ「あつ、おはようりぜちゃん。もうあさだよ」

リゼ「一人で起きられたんだな、偉いぞ」

ここあ「ふおえ？」

リゼ「それとも今日が楽しみで眠れなかったか？」

ここあ「たのしみ……？リゼちゃんやみんながいれば、わたしはまいにちがたのしみだよ」

リゼ「優しいな、ここあは」

ここあ「リゼちゃんのことだいすきだもん／＼」ニコッ

リゼ「よつと……」ヒョイ

ここあ「わぁ♪」

リゼ「——んっ？」

リゼ（おかしいな……何か違和感が……）

「ここあ「どうしたの？」」

リゼ「ここあ、少し身長が伸びたか？」

「ここあ「そんなことないよ？」」

リゼ「でも、いつもなら身体ごと……」

「ここあ「りぜちゃん、まだねぼけてるの？もう幼稚園じゃないよ」

リゼ「え……」

「ここあ「早くしないと大学おくれるよ、わたしも学校があるからいそごう」

リゼ「学校!？」

「ここあ「今日のあさごはんは、りぜちゃんがこのまえほめてくれたバタームニエルだ」

よ
」

リゼ「待て、ここあ。学校って……」

ここあ「小学校、もう2年生だから一人で行けるよ、心配しないで」

リゼ「小学校?!? 2年生!?!」

ここあ「早いよね、りぜちゃんももう大学3年生だもん」

リゼ「わたしが!?! いや、まだ大学にすら入って……!?!」

ここあ「先に行ってるよ、顔洗って歯磨きしたらダイニングまで来てね」

リゼ「あつ、ここあ……!?!」

ガチャツ バタン

リゼ「……………」

リゼ（夢か……それともタイムスリップか）

リゼ（わたしがここあと過ごした思い出を忘れるはずがない……思い出せ！）

リゼ（ここあとハグして、一緒に遊んで、ラビットハウスで働いて……）

リゼ（——……あれ？）

リゼ（毎日してないか、これ……？）

——ダイニング——

リゼ「お、おはよう」スツ

ここあ「おはようりぜちゃん、はやく座って」

使用人「おはようございます、お嬢」

メイド「ペコリ

リゼ「お前たち……」

使用人「2年生になってからは小さいお嬢が朝食を作ってくださいるので我々も助かり

ます」

メイド「コクコク

リゼ「そ、そうか……はは」

使用人「お嬢？」

リゼ「とりあえず食べよう！いただきます」

リゼ「んっ……？」

リゼ（なんだ……視界がぼやける……？）

ここあ「——ぜちゃん」

リゼ「！」

ここあ「襟が曲がってるよ、直してあげるからしやがんで？」

リゼ「ここあ……あれ、朝食は？」

ここあ「さつき食べたでしょう、まだお腹すいてる？」

リゼ「いや、そんなことは……すまない」スツ

ここあ「今日はツインテールにしたんだね」

リゼ「えっ、いつもこの髪型じゃ……」

ここあ「りぜちゃんは何でも似合うから大丈夫だよ」

ここあ「だって——世界で一番可愛いもん……」

リゼ「へ？」

ここあ「りぜちゃん、わたしのりぜちゃん……ふふ……」スツ

リゼ「ここあ……？」

ここあ「今日も一日頑張ろうね……——んっ」チュツ

リゼ「っ!？」

ここあ「いってらっしやい♪」ニコッ

リゼ「……………／＼」

ここあ「どうしたの？」

リゼ「い、いや、ここあからキスしてくるなんて……珍しいと思って／＼」

ここあ「そんなことないでしょ？毎日10回以上してるよ」

リゼ「そんなに!?!／＼」

ここあ「イヤだった……?」

リゼ「あつ、イヤじゃないぞ、ただ驚いただけで……!」

ここあ「?」

リゼ「そろそろ行こうか、なっ?」

ここあ「いえっさー!」

リゼ「そのポシエツト、まだ使ってくれてるのか」

ここあ「りぜちゃんからもらった物だもん」

ここあ「例え破れても、泥に落ちても、バラバラになっても直して使うよ」

ここあ「わたしの命より大切なもの……」ギユツ

リゼ「大げさだな、ポシエツトくらいまた買ってあげるぞ」

ここあ「ううん、これがいい」

ここあ「これを持っているだけで……りぜちゃんと、みんなと、いつでも繋がって
られるから」

リゼ「……ここあ」

「ここあ「みんな——だいすき」

??「やつほー」

リゼ「!」

??「リゼ先輩、ここあ」

「ここあ「しやろちゃん!ゆらちゃん!」

ユラ「ここあちゃんおはよう今日も可愛いね」ナデナデ

「ここあ「ゆらちゃん、ギユってしよう?」

ユラ「お安い御用」ギユツ

「ここあ「んっ……／＼」

リゼ「シャロも同じ大学か」

シャロ「リゼ先輩？」

リゼ「いや、なんでもないぞ」

ここあ「シャロちゃんもして？」

シャロ「ここあはいくつになっても甘えん坊ね」ギユツ

ここあ「しやろちゃんすき……／＼」

リゼ「さて……それじゃあ、わたしたち3人は大学で？ここあは小学校、か？」

ユラ「どうして疑問形？変なりゼ」

ここあ「じゃあね、リゼちゃん。おうちで待ってるよ」

リゼ「ああ、ここあも気を付けてな」

ここあ「んっ……」 チュツ

リゼ「……！／＼」

ここあ「いってきます♪」 タタタ

リゼ（シャロたちの前で……さすがにマズいんじや……）

シャロ「リゼ先輩、わたしたちも行きましょう」

ユラ「相変わらずここあちゃんとラブラブだね〜リゼは」

リゼ「」

リゼ（……んっ？）

リゼ（あれ……ここ、家の前？）

ここあ「りぜちゃん、おかえりなさい！」

リゼ「ここあ……？小学校に行ったはずじゃあ——」

——ギユツ

リゼ「つと……」

ここあ「んっ／＼」スリスリ

リゼ（ユラとシャロは……？）キヨロキヨロ

「ここあ……ん？」

「ここあ……………」スンスン

リゼ「ここあ……わたしたち、さつきまで——」

「ここあ」「りぜちゃん……今日、誰かとハグした？」

リゼ「えっ？」

「ここあ」「りぜちゃん以外の匂いにする……ユラちゃんでもシャロちゃんでもない」

「ここあ」「知らない匂い……だれ？」

リゼ（なんだ……ここあの様子が……）

ここあ「わたしの知らない人と、勝手にハグしたの……？」

リゼ「いや、まったく身に覚えが……」

ここあ「……うそ」

ここあ「わたしがリゼちゃんの匂いを間違えるはずないもん……」ギリツ

リゼ「！」

ここあ「正直に言って、リゼちゃん……怒らないから」

ここあ「嘘つきなリゼちゃんなんて、わたしの好きなリゼちゃんじゃない……」ジツ

リゼ「……！」ゾクツ

リゼ「あ……そ、そういえば、今日大学で転びそうになった子をとつさに抱き留めた

んだった！」

リゼ「決してハグしたわけじゃないぞ！」

ここあ「……ほんとう？」

リゼ「ああ……」ダラダラ

ここあ「……」

リゼ「……」ゴクリ

ここあ「……そっか♪」ニコッ

リゼ「！」

ここあ「りぜちゃんは優しいね……／＼」ギユッ

リゼ「し、信じてくれるのか？」

ここあ「りぜちゃんのこと疑うわけないよ」

ここあ「りぜちゃんはわたしに嘘なんてつかないもん……わたしのこと、裏切ったりしない……」

ここあ「だって、世界で一番素敵だから……」

リゼ「……」

ここあ「ラビットハウスにいこつか、ちのちゃんが待ってるよ」

リゼ「あ、ああ、そうだな……」

リゼ（助かったのか……？）

「こゝあ」ふふっ……／＼「ギユッ

——ラビットハウス——

こゝあ「こんにちは」ガチャッ

チノ「こゝあさん、リゼさん」

千夜「こゝあちゃん、こんにちは」

「ここあ「ちやちゃん！きてたの？」」

千夜「甘兎庵が暇だったからお邪魔しちやったわ」

「ここあ「ゆつくりしていつてね」ギユツ

千夜「ありがとう、ここあちゃんの淹れたコーヒーでも貰おうかしら」

「ここあ「わたしにまかせなさい！」」

リゼ「コーヒー淹れられるのか？」

「ここあ「チノちゃんに教えてもらったんだよ」

チノ「この前リゼさんも飲んでいたじゃないですか？」

リゼ「そ、そうだったな、すまない」

ここあ「チノちゃん、何でも教えてくれるの／＼」ギョツ

チノ「今度は一緒にローストビーフを作りましょうね」ナデナデ

ここあ「うん、約束」

ザワザワ ガヤガヤ

リゼ（みんな変わってない……やっぱりわたしが変なのか？）

リゼ（……いや、さつきからなにかがおかしい）

リゼ（やっぱりこれは夢か！）

リゼ「そうだ！夢に違いない！」

チノ「！」ビクッ

リゼ「千夜、わたしの頬を叩いてみてくれ」

千夜「リゼちゃん!?!どうしたの!?!」

ここあ「リゼちゃん、マゾだったの……?」

リゼ「ここあにそんな言葉教えたのは誰だ!!?」

千夜「恐らくユラ先輩じゃないかしら」

チノ「マゾ……?」キョトン

リゼ「もういい！自分で叩く！」

リゼ（頼む！夢なら覚めてくれ……！）

?? 「——ぜちゃん」

リゼ「え……？」

ここあ「今日もお疲れ様、りぜちゃん」

リゼ「ここは……わたしの部屋？」

ここあ「やっと二人きりになれたね……この時間が一番幸せ」

リゼ（電気が消えててベッドの中……ということとは就寝前か！）

ここあ「明日はおやすみだね、ずっと一緒にいられるよ」

ここあ「りぜちゃん……／＼」ギョツ

りぜ「こ、ここあ……／＼」アセアセ

ここあ「ずっとこうしていたいな……」

りぜ「う……えつと、学校楽しくないのか？」

ここあ「ううん、楽しいよ」

ここあ「でも、りぜちゃんとかうして一緒にいられる時間に比べたら、学校なんて……」

ここあ「りぜちゃんは今日も可愛いね……だいすき／＼」スリスリ

りぜ「……！／＼」

リゼ（違和感の正体があった……！）

リゼ（ここあとわたしの立場が逆転している……！）

ここあ「りぜちゃん……今日も、しよ？」

リゼ（するってなにを……!?／＼）

ここあ「一緒に寝よ……ねっ？」

リゼ（どういう意味だ……!?／＼）

ここあ「んっしょ……」スツ　ウマノリ

リゼ「！」

「ここあ「りぜちゃんとわたしは、恋人で、家族……」

「ここあ「だからね、りぜちゃんはずっとわたしのもの……」

「ここあ「チノちゃんも千夜ちゃんも、シヤロちゃんも、ユラちゃんも……」

「ここあ「みんなのこと、好き……」ハイライトオフ

りぜ「ここあ、待て！いい子だから落ち着け、なっ？／＼」

「ここあ「りぜちゃん……ふふ……／＼」

「ここあ「世界一好きな、わたしのりぜちゃん……」

「ここあ「キスから、するね……」スツ

りぜ「待ってくれここあ……！まだ心の準備が……！／＼」

いっいあ「んっ……っ／＼」

りぜ「○△%\$×□~~~~っ！！／＼」

—

—

—

—

『りぜちゃんあさだよ、おきてー』

リゼ（……………！）

『まちあわせおくれちやうよう？ねえりぜちゃん』

リゼ（……………あの声……………これは……………まさか！）

『むう……………えいつ！』ポスツ

リゼ「！」

ここあ「りぜちゃん、おきてー！」

リゼ「あ……………あ……………！」ガクガク

リゼ（やっぱり夢じゃなかったのか……………！）

リゼ「つ……………、ここあ、おは——……………」

ここあ「あつ、おきた♪」

リゼ「」

ここあ「リゼちゃんおはよう、もうあさだよ」

リゼ「……………ここあ？」

ここあ「きょうはりゼちゃんよりもはやくおきたよ」エツヘン

リゼ「学校は…………？」

ここあ「がつこう？おしやうがつだからしばらくおやすみでしょう？」

リゼ「」

「ここあ」はやくおきて、みんなでおまいりにいつてもちつきしよう」

リゼ「」

「ここあ」はやくしないとねぼすけりぜちゃんやつつけるよくえいえいつ」ポカポカ

リゼ「……………」プルプル

「ここあ」ふおえ？」

リゼ「ここああああぁぁぁっ！！！！」ギョツ

「ここあ」わわっ……………」

リゼ「良かった！元のここあだ！わたしの可愛いここあなんだな！」

「ここあ」「りぜちゃん、どうしたの？」

りぜ「なんでもないぞ！良かった……！」グスツ

りぜ「いつまでも天使のままできてくれ、ここああ……！」スリスリ

「ここあ」「えへへ、りぜちゃんもふもふ♪」

りぜ（あのここあも悪くはないが……）

りぜ「わたしは今のここあが一番好きだぞ／＼」ホツペ チュツ

「ここあ」「んっ……わたしもりぜちゃんすき／＼」ニヘラ

next.

log VIII. coco×chino II—Two secrets IV

「うっくん……」

——今日はココアさんと二人でお出かけです…。

「悩みます…（どれ着ていこう…。）」

ガチャツ

「チノちゃっくんっ！そろそろ準備出来た？出かけようっ！」

「!!」ハッ

「ま、まだですー!!!」

「えくもうお昼だよ？そろそろ出ないと時間が…」

「も、もう少しだけ待ってくださいっ」

「だって……」

「……せつかくのココアさんのお出かけ…」

「おしやれしたいです……」

「……」

「……」

「……」

「……一時間後……」。

「お、お待たせ…:…:しました…:。」

「おおうっ」

「チノちゃんかーわいいっ
♥♥」ガバツ

「おっ昼くく！いただきまーす♥」

モグモグ モグモグ

「チノちゃん見て見て〜♪」

「これティツピーに似てるね〜」

「おおっ」

「おっ」

「あ、ありがとうございます…／＼／＼」

「チノちゃんと二人きりでいれるの幸せだよ♡♡」

「」

「……」

「…あ、あのっ、私も……」

ポツ…

ポツ　ポツ　ポツ…

「あっ」

「雨…?!」

ポツポツポツ…

「チノちゃんこつち!!」グイッ

サアアアア…

「わくく……濡れちゃった…」

「……」

「クシユンツ」

「チノちゃん?!大丈夫?!」

「あ……」

「手…冷えちやつてる…」

「……。」

「……。」 ドキッ ドキッ……

チュ

「……っ」

「……。」

「チノちゃんツ」 バツ

チュ

「……っ?!」

チュツ チュ…

「ココアさ…んツ…つ」

プハッ

「…っはあ…っ…はっ…」

「待つ…」

「あっ…」 スッ

「も、もういい加減にしてくださいっ」

「だってチノちゃん可愛いんだもん…」 シュン…

「うう……………そ、その…そ、その…嫌というわけでは…ないので…するなら…その…お家で…人のいない時お願いします…します…。」

「……………！」

「チノちゃん♥♥」 ガバツ

「人の話聞いてましたか?!」

「あつ、雨が…」

「止んだーっ!良かった〜」

「そろそろ、帰ろっか…。」

「……………」

「はい…」
「ギョ…ッ」

Two
s
e
c
r
e
t
s

e
n
d.

next.

log IX. Stealth mission!! I

【いつもの帰り道】

メグ「マヤちゃんチノちゃん、じゃあまた明日ね〜」テフリフリ

マヤ「おうメグ！まったなく」フリフリ

チノ「また明日です」フリフリ

マヤ「ねえチノ？」コソコソ

マヤ「11月2日って何の日か知ってる？」

チノ「もちろんです」フンス

チノ「メグさんのお誕生日：ですね。」

マヤ「そう！」

マヤ「それでね、今年はラビットハウスでお祝いしたいと思っただけど」

マヤ「大丈夫そうかな？」

チノ「いいアイデアです！帰ったら父に相談してみます。」

マヤ「分かった！サンキュー！」

チノ「詳しい事は明日決めましょう。メグさんには内緒にしておかないと…」

マヤ「そうだね！」

マヤ「チマ(メ)隊！ステルスミッションスタート！！」

マヤ「おーっ！！」

チノ「おっ…おーっ！」

・
・
・

【ラビットハウス】 夜

チノ（お父さんには許可を貰えました！）

チノ（後はパーティーの準備ですね…）

チノ（…）

チノ（こういったことはココアさんの方が詳しくそうです…）

チノ（相談してみよう…）

トントン

ココア「はい」

チノ「チノです、今大丈夫ですか？」

ココア「うん！入って入って」

ガチャッ

チノ「少し相談したいことがあって…」

ココア「こんな時間に相談事…?」

ココア「…はっ!まさか恋の…」

チノ「早とちりです。」

チノ「実はメグさんの誕生日パーティーを

ラビットハウスで開こうと思っているのですが」

チノ「私1人では何も思いつかなくて…」

チノ「メグさんに喜んでもらえそうな良いアイデアはないでしょうか?」

ココア「なるほど…お姉ちゃんとしての魅せ場がやってきたようだね…!」

ココア「まずはラビットハウスをバレエスタジオに改装して…」

チノ「相談したのが間違いでした…」ドヨン

ココア「ごめん冗談だから!そんな顔しないで!!」

チノ「…まったくココアさんは…」

ココア「えへへ…」

ココア「おっと!話が逸れちゃった」

ココア「パーティーならみんなも誘ってぱーつと盛大にやろうよ!」

チノ「いいですね」

ココア「それで飲んで歌って踊って!朝までエレクトリカルパレードするの!!」

ココア「一発芸なんかもいいねえ……」

ココア「千夜ちゃんも漫才コンビ再結成しなくちゃ……!」

チノ（また話が逸れていく……）

……

……

【中学校】お昼休み

……

チノ「マヤさん、ラビットハウスはOKです」コソコソ

チノ「ココアさんも誘って見ましたがかなり張り切っていました」コソコソ

マヤ「おっ!やるね〜チノ!」コソコソ

マヤ「私も今日リゼを誘いに行こうと思ってたから、先に2人で帰っててよ」コソコ

ソ

チノ「分かりました、メグさんには上手くごまかしておきます。」コソコソ

チノ「他になにか……」コソコソ

メグ「どうしたの2人とも〜」

チノ「なっ……なんでもないですよ」

マヤ「そうそう!何でもないとよな〜!」アワアワ

メグ「ふうーん、へんなの〜」

チノ「マヤ（ふーっ、あぶないあぶない）」

・
・
・

メグ「マヤちゃんチノちゃん、かえろ〜っ」

マヤ「わたしちよつと用事あるからー！」ダツダツ

チノ「仕方がないので2人で帰りましょう」

メグ「うん！」

：

メグ「マヤちゃん、あんなに急いでどうしたのかなー？」

チノ「…私にも分かりません」

メグ「前にもこんなことあったよね〜」

チノ「…りげさんに相談しに行ったときの話ですね」

チノ「マヤさんは私たちに隠し事が多いですから…」

メグ「でも誰よりも私たちのこと想っててくれてるんだよね〜」

チノ「そうですね」クスッ

チノ「だから、今回も心配要りませんよ。」

メグ「そうだよね〜」ニコニコ

チノ（本当はメグさんのためなのですが・・・）

チノ（うまくごまかせたでしょうか？）

チノ（メグさんの笑顔を見てると・・・ちよつぴり罪悪感が・・・）

メグ「・・・チノちゃん？」

チノ「・・・はっ、はい」

メグ「どうしたの？」

チノ「・・・いえ、何でもないです」

チノ「帰りましょうか」

メグ「うん！」

・・・

【お嬢様学校】校門

生徒「ごきげんよう」

リゼ「じゃあ、また」

：

リゼ「・・・テクテク

??「あゝらりゼさん、ごきげんよう」アッハーン

リゼ「・・・誰!？」バツ

リゼ「・・・って、なんだ、お前か」

マヤ「へっへーん、気品が溢れてたでしょ？」ドヤツ

リゼ「悪意に溢れてたよ」ハアツ

リゼ「それで：何か用か？」

マヤ「うん、ちよつとね。また相談」

リゼ「どうした？」

マヤ「11月2日がメグの誕生日だね」

マヤ「ラビットハウスでお祝いしようってなつただけど」

マヤ「リゼにも来てほしいな〜って」

リゼ「そんなことだったか」

リゼ「その日シフト入ってるから」

リゼ「わざわざ言いに来なくても行けたのに」

マヤ「ほんと？よかったあー！」

マヤ「リゼにはどうしても来て欲しかったから、ラッキーだね!!」

マヤ「何てつたつてチマメ隊の教官だし！」

リゼ「教官か：照れるな」テレテレ

リゼ「それなら：何か用意していかないとな！」

マヤ「うん！期待してるよ！」

マヤ「じゃあまた！待ってるからね!!」フリフリ

リゼ「おう、またなー」フリフリ

リゼ（マヤって…）

リゼ（結構友達想いなどこあるんだな）クスツ

・
・
・

【甘兎庵】

ココア「それでね、千夜ちゃんにも来てほしいなーって」

千夜「まあ、素敵ねえ〜」

千夜「是非お手伝いさせてほしいわ」

ココア「それで、何かいいアイデアないかな？」

千夜「そうねえ・・・」

カランカラン

シャロ「千夜〜」

シャロ「いるー?」

千夜「シャロちゃん！」

ココア「ちようどいいところに！」

「シャロ「ココア? 千夜と2人でどうしたの?」

ココア「実は…」

∴

「シャロ「そう、それで千夜に相談してたの」

ココア「うん」

ココア「シャロちゃんも来れそうかな?」

シャロ「そうね…」

「シャロ「確かバイトは休みだったはずだから、行けると思うわ」

ココア「やったあ!」

ココア「これでパワーアップした漫才トリオの結成だよ!!」

シャロ「ちよっ! なんの話よ!!」

千夜「私とココアちゃんできてるから」

千夜「シャロちゃんはツツコミお願いね♪」

シャロ「しないわよおバカ!!」

千夜「あら? シャロちゃんのツツコミは世界に通用するレベルよ?」

ココア「そうなの!?!」

「シャロ「そんなわけないでしょ!」パシン

千夜「ナイスツツコミよ♪」

シャロ「!!」フルフル

シャロ「ああもう!!!」

・
・
・

【中学校】 昼休み

チノ「いよいよ明日ですね」コソコソ

マヤ「この日のために色々準備してきたもんなく」コソコソ

チノ「メグさんに見つからないようにするのは大変でした」コソコソ

マヤ「絶対に成功させよう！」コソコソ

メグ「チノちゃん！マヤちゃん!!」

チノマヤ「！」

マヤ「どうしたんだよメグ!?!大きな声出して…」

メグ「最近2人で内緒話ばかりしてるよね…?」

メグ「わたしだけ仲間はずれみたいで…」

メグ「もしかしてわたしのこと、嫌いになっちゃったの…?」ウルウル

マヤ「そんなわけない！」

チノ「私たちがメグさんを嫌いになるなんて絶対にありえません！」

メグ「それじゃあどうして…」

マヤ「それは…」

チノ「…」

チノ「もう少しだけ待ってください」

チノ「ちゃんと説明しますから…」

メグ「うん…」

n
e
x
t
.

l o g X . S t e a l t h m i s s i o n !! I I

∴下校後

チノ「どうしましょう、メグさんを悲しませてしまいました」

マヤ「うん・・・ちよつと反省」

マヤ「でも！明日ちゃんと説明すれば喜んでもらえるよ！」

チノ「そうですね」クスツ

チノ「そのためにも今日も準備、頑張りましょう。」

マヤ「おーっ！」

11月2日 【学校】

マヤ「メグ！誕生日おめでどう!!」

チノ「メグさん、おめでどうございます。」

メグ「…！」

メグ「わあゝっありがとう！」

メグ「覚えててくれたんだねえゝっ」

マヤ「当たり前だろー？」

チノ「当然です」

マヤ「それでね、学校終わったら」

マヤ「一緒に来てほしいところがあるんだ」

メグ「わかったらっ」

メグ「どこなんだろう？」

マヤ「まだ秘密だよ！でも期待してていいからね」フフーン

メグ「楽しみだねっ！」

・
・
・
・

【ラビットハウス前】

マヤ「ほらメグー！チノー！はやくはやくー！！」

チノ「主役はメグさんですよ」タツタツ

メグ「まつ、まつてえ」タツタツ

メグ「ここは…ラビットハウス？」

チノ「開けてください」

マヤ「ほらほらーっ！」

メグ「うん・・・」

ガチャッ カランカラン

『メグちゃん!!』 パーン

『お誕生日おめでとう!!!』 パーン!

メグ「わわわわわわっ!!」

メグ「なにこれえく!!!」 オドオド

マヤ「へっへっ、サプライズ大成功!!」

チノ「この日のために、みんなで準備したんです」

マヤ「マヤさんが色々計画してくれたんですよ」

メグ「そうだったんだ」

メグ「もしかして…最近こそこそ2人で話してたのはこのために?」

マヤ「そういうこと!」

チノ「そういうことです」

マヤ「でもごめんね、メグのことあまり構ってあげられなくて」

チノ「この日まで内緒にしておこうと必死になってしまったので…」

メグ「ううん」 フリフリ

メグ「わたしこそごめんね、2人のこと疑っちゃって…」

チマメ「…」

マヤ「ああ！やめやめ!!」

マヤ「せつかくのパーティーだよ！もつと楽しまなくちや！」

メグ「そうだねっ！」

チノ「お料理たくさん用意してあります」

ココア「私たちからも色々用意してあるよ〜！」

千夜「まずは余興に一発芸を披露しようかしら」

ココア「よっ！千夜ちゃん！待ってました!!」

アソーレソーレ！ ヒギ！オボンヨントウリュウ!!

メグ「あはははっ、千夜さんすご〜い!!」

千夜「まだまだこれからよ!!」

アソーレソーレ ヨイシヨ!

：

リゼ「私からはこれをプレゼントしよう」

メグ「かわいいぬいぐるみ〜」キラキラ

リゼ「この前も作ったのにあまり芸がないけど…」

リゼ「特別仕様だから喜んでもらえると思うけど…」

メグ「ありがとうございます〜」キヤツキヤツ

リゼ「チノ、マヤ、ちよつと」チヨイチヨイ

リゼ「ほらこれ」

マヤ「ぬいぐるみ？」

チノ「どうして私たちにも…？」

リゼ「今日の誕生日パーティー、お前達が一番頑張ってたからな」

リゼ「教官からのご褒美だ。」

チノ「よく見るとメグさんのと形が似ています…」

リゼ「チマメ隊特別仕様だからな！」

リゼ「3つとも色違いのお揃いにしてあるんだ」

マヤ「教官…感動したよ！サーツ!!」

チノ「ありがとうございます、大切にします」

リゼ「ああ！」

：

ココア「ほらほら！3人ともこつちこつち!!」

ココア「今から千夜ちゃんシャロちゃんと漫才やりまーす！」

シャロ「いえーい!!!」カフェインハイテンション

メグ「あははははっ！シャロさんもう面白いよ〜っ!!」

∴

チノ「メグさんとても楽しそうです」

マヤ「そうだねっ！」

チノマヤ『ステルスミッション大成功！（です）』

・
・
・

・
・
・

【通学路】 朝

ココア「じゃあねチノちゃん、行ってらっしゃーい！」フリフリ

チノ「いつてきます、ココアさんもお気をつけて」フリフリ

ココア「うん！」

∴

チノ「マヤさんメグさん、おはようございます」

マヤ「おっはよーチノ！」

メグ「チノちゃんおはよー」

メグ「あ、そうだ！」

メグ「マヤちゃんチノちゃん！昨日はありがとうね！」

メグ「わたしあんな楽しいお誕生日初めてだったよ〜」

チノ「喜んで貰えて良かったです」

マヤ「がんばってよかったよー！」

チノ「マヤさんが一番張り切っていましたから」

メグ「そうなの？マヤちゃん！ありがとう！」

マヤ「…うっ」テレッ

マヤ「／／」カアッ ブンブン

マヤ「さ、さあチマメ隊!!」

マヤ「今日も張り切って…しゅっぱーっ!!」

『おーっ!!!』

n e x t .